

理学療法室の紹介



一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

目次

- 当院理学療法士の業務
- 教育体制
- スタッフの声
- 室長から

当院理学療法士の業務

● 急性期・一般病棟

入院初日から医師の指示のもと評価・運動療法を開始しています。十分なリスク管理のもと早期離床・早期歩行練習による身体機能向上・ADL拡大に取り組んでいます。

一般病棟では心臓リハビリもを行い、医師等と連携してリスク管理をしながら運動療法や生活指導を行い、ADL向上・社会復帰支援・再発予防に取り組んでいます。





● 回復期病棟

身体機能向上を目的とした練習に加え、病棟内の実際に生活している場所で動作練習を行い、入院中だけでなく今後の生活を見据えた理学療法を展開しています。また多職種と協働して、早期のADL向上と自宅復帰を目指します。

● 訪問・外来リハビリテーション

対象となる方が住んでいる地域で自立した生活を送ることや、自分らしく生きがいを持って生活できることを目的としています。必要に応じて自宅での生活状況の確認や動作・介護指導を含め、生活を支える視点でアプローチしています。



- 医療を支えるチームの一員として

当院では医療安全面において理学療法士が転倒・転落防止対策の立案やその点検等に携わり、理学療法の知識と技術を活用しています。

その他にも褥瘡対策委員会や排泄支援チームなど、理学療法士が活躍できる場は多方面にわたっています。

当院では、脳神経系理学療法において以下の3点に重点を置いています。

①装具療法

積極的な長下肢装具の利用と装具を使用した運動療法により、患者様の運動学習を効率的・効果的に行えるようにしています。

②電気刺激療法

ウォークエイド、ESPURGE（エスパージ）、IVES（アイビス）を利用し、身体機能の改善を図るだけでなく運動療法の効果を促進できるようにしています。



③早期立位・歩行練習

早期からの立位・歩行練習により、患者様のADL向上を支援します。安全・安心に練習が行えるよう、免荷式歩行リフトPOPOや部分免荷トレーニング機器も活用しています。

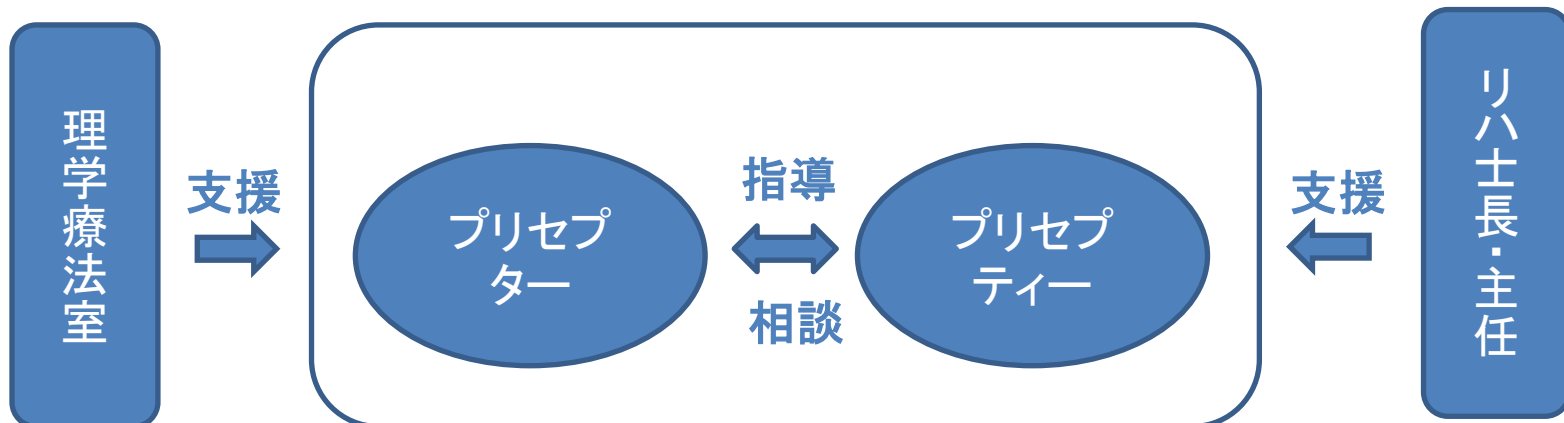


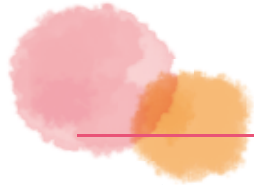
理学療法室の教育体制

新人指導

基本的な理学療法が実践でき、専門職としてふさわしい知識・技術・態度・管理能力の習得と自己研鑽を支援するためプリセプター制度を導入しています。

指導者が新人の能力に合わせて段階的に経験を積むことができるように支援します。臨床場面に即した職員評価を定期的に行い、短期・長期ゴールを立案して目標達成に向けた方針を共有します。






グループによる指導

回復期病棟ではグループ制を採用しています。役職者の指導のもとグループメンバー全員で相談しあい、方針や理学療法アプローチを決定します。

研修会

毎月症例検討会を開催し、理学療法評価や治療方法について意見交換する機会をつくっています。異なる立場や視点から多くの意見が出るため、より良い理学療法を提供できるために有意義な場となっています。



個人のスキルアップも積極的に支援しています。

当院理学療法士の保有資格(令和5年5月現在)

日本理学療法士協会 認定理学療法士(脳卒中・循環)

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士

3学会合同呼吸療法認定士

日本臨床栄養代謝学会 NST専門療法士

回復期リハビリテーション病棟協会 回復期セラピストマネジャー

社会福祉士

介護支援専門員(ケアマネジャー)

東京商工会議所 福祉住環境コーディネーター(2級)

職員の声①

➤ 理学療法士 1年目

理学療法士として勤務し数か月が経過しました。少しずつ臨床の雰囲気にも慣れ、患者様と関わる場面も増えてきました。先輩への質問がしやすい環境のため、アドバイスや指導を受けながら、日々学ぶことができると感じています。定期的に勉強会があるので、積極的に参加し、自分自身のスキルアップに繋げていきたいと思っています。

今後も、より良いリハビリテーションを提供できるよう努めていきます。

職員の声②

➤ 理学療法士 5年目

当院では脳血管疾患を中心に、多様な症例に対してリハビリテーションを提供しており、患者さんと向き合うことの重要性を感じながら日々業務にあたっています。臨床の中で感じた疑問は、症例検討や臨床研究を通じて解決するよう努めています。

私自身、業務と並行して大学院の活動を行っており、脳血管疾患の症例数が豊富な当院は研究活動を行うには恵まれた環境であるといえます。学術活動を通じて得られたものを、臨床へ還元することが重要と考えているので、今後も両者の活動に邁進していきたいと思えます。

職員の声③

➤ 理学療法士 11年目

私は2度産休・育休を取得し、まだ小さい子供を育てながら時短勤務で働いています。忙しい毎日ではありますが、子供との時間も大切にしつつ、仕事のやりがいを感じられるため、フレキシブルに勤務することができる職場環境に感謝しています。

現在回復期病棟で勤務していますが、脳血管疾患だけでなく、整形外科疾患、内部障害を持つ患者様など、様々な疾患の患者様と接する機会があり、学ぶ機会を多く得られると感じています。

今後も家庭を大事にしながら、一人の理学療法士として自分を高められるよう、日々努力していきたいと思います。

理学療法室長から

私たちは今年度の部門目標を「評価に基づいた介入と効果判定を徹底する」と設定し、患者様にとって最良の理学療法を提供できるように努めています。

当院は青森県で最も多くの理学療法士が在籍しています。それぞれの職員に様々なライフイベントがありますが、みんなで支え合い・助け合いながら業務をしています。

中枢神経系や循環器系理学療法に興味のある方はもちろん、熱意や向上心のある方は、ぜひ一緒に働きましょう！

理学療法室長 山本 賢雅